平成 29 年度事業　事後評価・決算

事務事業マネジメントシート

平成　30　年　6　月　1　日作成

事務事業名	畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業施設整備事業補助金	所属部	農林振興部	所属課	林業畜産課
総合計画体系　政策名	〈Ⅴ〉挑戦し活力を産みだすまち≪産業≫	所属G	畜産グループ	課長名	杉原律雄
施策名	〈36〉農業の振興	担当者名	藤原　一浩	電話番号	0854-40-1050
目的　対象	市内の農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産するとともに、農業所得が向上する。	（内線）	2411
基本事業名	〈110〉安全・安心で売れる農畜産物の生産	予算科目	会計 01　款 30　大事業 01	大事業名	畜産事業総務管理事業
目的　対象	担い手農家・担い手以外農家	意図	安全・安心な農畜産物を生産する。		
		予算科目	項 05　目 40　中事業 98	中事業名	畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業施設性に事業補助金

1　現状把握【DO】

（1）事業概要

① 事業期間

☐ 単年度のみ　☑ 単年度繰返（ 29 年度～ ）

☐ 期間限定複数年度（　　年度～　　　年度　）

② 事業内容（期間限定複数年度事業は全体像を記述）

畜産ｸﾗｽﾀｰ推進協議会が、市内の畜産農家が取組主体となって収益力の向上を目指して行う施設整備事業に対し、国、県の補助金交付要綱並びに市の当該事業の補助金交付要綱等に基づき施設整備費を補助する。

（2）事務事業の手段・指標

① 主な活動（手段）

29年度実績（29年度に行った主な活動）	30年度計画（30年度に計画する主な活動）
①市畜産クラスター協議会の運営 ②事業の取りまとめ ③補助金の交付手続き、支払い ④施設整備事業の進捗管理、整備内容の確認	①市畜産クラスター協議会の運営 ②事業の取りまとめ ③補助金の交付手続き、支払い ④施設整備事業の進捗管理、整備内容の確認

② 活動指標	単位	27年度（実績）	28年度（実績）	29年度（実績）	30年度（計画）
ア 施設整備事業経営体数	経営体			1	1
イ 機械整備事業要望件数	経営体			2	5
ウ					
エ					

（3）事務事業の目的・指標

① 対象（誰、何を対象にしているのか）

和牛飼養農家、酪農農家、養鶏農家

③ 対象指標	単位	27年度（実績）	28年度（実績）	29年度（実績）	30年度（計画）
ア 和牛飼養農家	戸	115	114	108	108
イ 乳用牛飼養農家	戸	14	12	12	11
ウ 養鶏農家	戸	9	8	6	6

② 意図（対象がどのような状態になるのか）

飼養頭羽数が増加する。

④ 成果指標	単位	27年度（実績）	28年度（実績）	29年度（実績）	30年度（計画）
ア 子取り用めす牛飼養頭数	頭	410	484	520	520
イ 搾乳用めす牛飼養頭数	頭	551	497	477	480
ウ 採卵鶏（成鶏）飼養羽数	羽	215,103	208,169	171,830	171,830

（4）事務事業のコスト

① 事業費の内訳（29年度決算）

補助金60,714千円

② コストの推移	単位	27年度（決算）	28年度（決算）	29年度（決算）	30年度（計画）
事業費 財源内訳 国庫支出金	千円			60,714	23,108
県支出金	千円				
地方債	千円				
その他	千円				
一般財源	千円				
事業費計 （A）	千円			60,714	23,108
人件費 正規職員従事人数	人				
延べ業務時間	時間			320	
人件費計 （B）	千円			1,305	
トータルコスト(A)+(B)	千円			62,019	

（5）事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 （この事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？）	② 改革改善の経緯 （この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか？）	③ 関係者からの意見・要望 （この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか？）
畜産農家の高齢化や後継者不足に加え、TPPなどの貿易協定の対策として収益性を向上させていく必要がある。このため、地域が一体となって畜産ｸﾗｽﾀｰ協議会を組織し、多様な組織が連携して飼養頭羽数の拡大などの収益力の強化に取り組んでいく必要がある。	なし	畜産クラスター協議会を通じて、畜産農家から収益力の向上を目指した施設整備及び機械整備の要望がある。 飼養頭羽数の拡大と並行して、適切に家畜ふん尿処理対策を講じるよう要望がある。

雲南市（H27年2月改正版）ver.1.3

事務事業名	畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業施設整備事業補助金	所属部	農林振興部	所属課	林業畜産課

2 事後評価【SEE】

A 目的妥当性

① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？

☐ 見直し余地がある　☑ 結びついている　＊余地がある場合⇒

② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？

☐ 見直し余地がある　☑ 妥当である　＊余地がある場合⇒

③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？

☐ 見直し余地がある　☑ 適切である　＊余地がある場合⇒

見直し余地があるとする理由：

B 有効性

④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？

☐ 向上余地がある
☑ 向上余地がない

理由：国の補助金交付要綱に基づき成果指標が設定されており、この目標達成に向けて事業を実施する必要がある。

⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？

☐ 影響無
☑ 影響有

理由：収益力の向上を目指した施設整備の要望が市内農家からあり、国の予算措置に対応していく必要がある。

⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？

☑ 他に手段がある　＊ある場合⇒（具体的な手段や類似事業名）：新農林水産振興がんばる地域応援総合事業
　☐ 統廃合・連携ができる
　☑ 統廃合・連携ができない
☐ 他に手段がない

理由：国の補助金交付要綱に基づき、県、市を間接補助者として補助を交付するため、他の目的の事業に統合することは出来ない。

C 効率性

⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）

☐ 削減余地がある
☑ 削減余地がない

理由：国の補助金交付要綱に基づき実施するため、採択された内容を削減することは出来ない。

⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？

☐ 削減余地がある
☑ 削減余地がない

理由：市が間接補助者であり、また、雲南市畜産クラスター協議会の事務局が市であるため、必要不可欠な事務である。

D 公平性

⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？

☐ 見直し余地がある
☑ 公平・公正である

理由：国が事業を周知しており、また、対象、要件等が国の補助金交付要綱に基づいているため、公平・公正である。

評価の総括

① 1次評価者としての評価結果

A 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
B 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
C 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
D 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

② 1次評価結果の総括（根拠と理由）

畜産振興を図るため、国の施策に基づき事業を活用する中で、頭羽数の拡大などの収益力の向上に取り組んでいく必要がある。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携
☐ 事業のやり方改善（有効性改善）　☐ 事業のやり方改善（効率性改善）
☐ 事業のやり方改善（公平性改善）　☑ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

補助金交付要綱等に基づき、国、県の指導を受けて事業を推進していく。

② 改革・改善による期待成果

		コスト 削減	コスト 維持	コスト 増加
成果	向上			
成果	維持		●	×
成果	低下		×	×

廃止・休止の場合は記入不要。
コストが増加（新たに費やし）で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。